

2020年4月12日

東京聖三教会

聖書日課と主教メッセージ



日本聖公会東京教区

東京聖三一教会

復活日 聖書日課

復活日特祷

すべての命と力の源である神よ、あなたはみ子の力ある復活により、罪と死の古い支配の力に打ち勝ち、み子にあって満物を新しくしてくださいました。どうかわたしたちが罪に死に、イエス・キリストにあってあなたに生き、栄光のうちにみ子とともに支配することができるようにしてください。父と聖霊とともに、讃美と誉れ、栄光と力が、いまもまた永遠にみ子にありますように。アーメン

使徒言行録 10:34-43

そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。神がイエス・キリストによって——この方こそ、すべての人の主です——平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉を、あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなされたことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く

証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証しています。」

日課詩篇 第 118 篇 14~29 節

- 14 主はわたしの力、わたしの歌 // 神こそわたしの救い
- 15 喜びと勝利の叫びが正しい人の天幕にある // 「主の右の手は力を示す
- 16 神の右の手は高く上がり // その右の手は力を示す」
- 17 わたしは生き長らえて死ぬことなく // 主のみ業を告げ知らせよう
- 18 主はわたしを責められたのに // 死に渡そうとはされなかった
- 19 正義の門よ、扉を開け // わたしは中に入って主に感謝を献げよう
- 20 これは主の門 // 正しい人はここから入る
- 21 わたしはあなたに感謝する // あなたはこたえてわたしを救われた
- 22 家造りの捨てた石が // 「隅のかしら石となった
- 23 これは主のみ業 // 人の目には不思議なこと
- 24 今日こそ主が造られた日 // この日をともに喜び祝おう
- 25 ああ、主よ、お救いください // ああ、主よ、栄えをお与えください
- 26 主のみ名によって来る人に、祝福があるように // わたしたちは主の家からあなたがたを祝福する
- 27 神、主はわたしたちを照らしてくださる // 枝を携えて行列に加わり、祭壇の角まで進もう
- 28 あなたはわたしの神 // あなたに感謝し、あなたをたたえる
- 29 主に感謝しなさい // 神は慈しみ深く、その憐れみは永遠

使徒書 コロサイの信徒への手紙 3:1-4

さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上に

あるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

福音書 マタイによる福音書 28:1-10

さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。すると、大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである。その姿は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった。番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだから、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なされたのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

復活日の黙想

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

今年(聖餐式聖書日課A年)の復活日には、二つの福音書箇所(ヨハネによる福音書 20:1—10・マタイによる福音書 28:1—10)が用意されています。その内のマタイによる福音書の後半には、「すると、イエスが行く手に立っていて、『おはよう』と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。イエスは言われた。『恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる』』という出来事が記されています。

「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び」とありますように、先ほどまで訳も分からぬ出来事に呆然としていたのとは打って変わり、婦人たちのその喜びは、筆舌に尽くしがたいものであったに違いありません。声も出せず、しかし、甦られたイエス様の足を抱き、ひれ伏したという姿からも想像できます。

一方、イエス様の婦人たちへの第一声はと言えば、「おはよう」です。ちなみに、文語の聖書では「平安あれ」と訳されていましたが、新共同訳聖書では「おはよう」と訳されており、何とも悠長な印象さえ受けます。あるいは、日常と何ら変わりのない様子さえも感じさせられます。

しかし、この「おはよう」は、原文では「Χαίρετε」という言葉が使われており、元々の意味は「喜びなさい」という命令形にもなっています。

甦られたイエス様の第一声が「おはよう」とは、上述のように悠長であり、余りにも日常的であり、拍子抜けする感じさえします。けれども、この一見日常的な言葉の奥深くあるイエス様の心には「私は、確かに甦ったのだから喜びなさい」「私があなたがたに与える平安に与りなさい」

という、励ましと祝福が込められていたことでしょう。

余談ですが、英語が不得手なこともあり、幼き日「Good Morning」を、そのまま「よい朝」と訳して揶揄われたことがあります。けれども、ご復活のイエス様の第一声は、「甦られたイエス様によって、神様の命の光が注ぎ込まれた朝」と、今は勝手に意味づけたりもしています。

それから、イエス様は「わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる」と命ぜられます。同じことをイエス様は、最後の晩餐の席上でも、ご自身、先にガリラヤへ行かれることを伝えていらっやいます。

ガリラヤは、イエス様の救い主としての働きの出発点でした。使徒たちにとっては、イエス様からの召し出しに与った所でした。いろいろな考えや解釈があるでしょうが、「原点」「出発点」ということに深い関係を感じさせられます。信仰生活も霊的生活も、常にこの原点、神様からの呼びかけと招きをいただき、第一歩を踏み出した信仰の旅路への出発、常に私たちはそこに立ち返り、心に向けたいものです。

そして、このイエス様に従う歩みが、聖霊によって祝福されるものとなりますよう祈ります。

ハレルヤ 主イエスはまことに甦られた！